

## 2006年度 共同研究経過報告

研究代表者 早川 弘道

研究課題			
旧ソ連・東欧諸国における体制転換と法			
2006年度	氏名	所属・資格	研究分担
代表者	早川弘道	法学大学院・教授	ロシア・ハンガリー・チェコ・バルト三国（比較憲法）
共同研究者	榎澤能生	法学大学院・教授	ドイツ（法社会学）
共同研究者	土田和博	法学大学院・教授	旧ソ連・東欧圏の経済法制
共同研究者	箱井崇史	法学大学院・教授	東欧圏の商法・経済法制
共同研究者	水島朝穂	法学大学院・教授	ドイツ（比較憲法）
共同研究者	佐藤史人	法学大学院・客員講師	ロシア・チェコ（比較法）
共同研究者	安藤泰子	青山学院大学・助教授	国際刑事司法
共同研究者	笹沼弘志	静岡大学・助教授	ロシア（教育法）
共同研究者	渋谷謙次郎	神戸大学・助教授	ロシア・バルト三国（言語法）
共同研究者	竹森正孝	岐阜大学・教授	ロシア・旧ユーゴスラヴィア（比較憲法）
共同研究者	直川誠蔵	元法学大学院・教授	ロシア・ブルガリア（比較法制史）
研究経過報告			
<p>2004年に旧ソ連・東欧圏を構成していたポーランド・チェコ・スロヴァキア・ハンガリー・スロヴェニア・リトアニア・ラトヴィア・エストニアが、キプロス・マルタと共にEU加盟を実現させるに至った。2007年1月にルーマニア・ブルガリアもまたEUに加盟し、ウクライナ・モルドヴァでもEU指向がメイン・イシューになる等、この地域における体制転換・民主化過程は、新たなサイクルに進入しつつある。2006年度の研究においては、これまでに引続いて、オーストリア＝ハンガリー二重帝国及びロシア帝国国制に関する歴史分析と今日における民主的国制建設に関する現状分析を試みた。今後その研究成果を公表する予定である。</p> <p>ハンガリーでは今、「体制転換の革命」が論じられてさえている。そのことは、「体制転換」の終焉過程を意味すると同時に、「体制転換」の見直し、再検討に基づく新たなオルタナティブの探求を含意している。ともあれ、ルーマニア・ブルガリア両国のEU加盟を一区切りとする全体過程のサイクルが国家レベルでは終了したことも事実として確認されよう。</p> <p>本共同研究は、かかる全体過程の帰結をもって、ひとまず終結することとし、本研究を前提とする新たな研究課題に移行することとしたい。</p> <p>さしあたって、20世紀社会主義体制のみならず、世界的規模におけるポスト戦後世界への移行の起点として認められる「1956年」に焦点を合わせた共同研究を次なる課題として設定することを予定している。</p>			